

中山邸の修復工事への思い

昭和 56 年頃、私の友人から連島で大きな家の瓦の修理をしてくれないかと相談を受け、下見をするのに出向いて現場に行くと、なんとお城の様な石垣、そして門構えはお城の様な門であり、生まれて初めてこの様な壮大な屋敷を見て、これほどのものとは想像もつかず、大変驚いた事を今でも鮮明に記憶に残っています。

丁度この頃が会社の方針も量から質へと挑戦を試みていた時でありましたので、是非手前共にとお願いをし、棟の巻替修復工事に携わらせて頂きました。それからは中山氏とは再々会い、知人から友人へと懇意な付き合いをし、何でも話せる間柄になりました。ときに座敷に上がり、庭園を眺め、大邸宅の維持の苦勞話を聞いたり、説太郎さんの経歴の話や、大正・昭和の時代の久原財閥でのナンバー 2 としての活躍、中山説太郎氏の武勇伝、色々と話を聞かせて頂きました。そんなに昔々の時代の話ではなく、ここに風雲児説太郎が居たのだと実感し、感銘を受けました。何か自分もやれば出来るのではと勇気も頂いた様にも思えます。

それから暫く疎遠になり、平成 28 年に御無沙汰していた中山氏が訪ねて来られ、久しぶりに話が弾み、再会までの話をしながら現在も維持に難儀をしている事を知りました。私自身が昭和 56 年から文化財建造物で頑張ろうと志を立てて来ましたので、文化財級の建造物が荒廃し廃屋になっていると聞かされると大変心苦しく、悲しく、又寂しい思いで一杯になりました。文化財級の仕事をして実績をつくり、優良工事会社にして行くぞと志の後ろ盾になっていた中山邸が…。 国、県、市の重要文化財が手掛けられる様になったのは此の御蔭で今日があるのだと言い聞かせ、持って死ねるお金では無い、自分を育ててくれた社会に地域に恩返しをしなくてはならないと強い思いを抱いて、中山邸を保存していく決心を固め取組をした次第であります。

中山邸は歴史的価値、建造物価値、又説太郎さんの活躍の伝説もあり、三拍子揃っている事を三宅氏、中山氏、中村先生に相談を掛け、快諾してもらい保存に向かって現在進行中で御座居ます。

願わくは、此の屋敷が皆々様に愛され、大切に守られ末永く活用される事を心より願う次第であります。

石井 二郎

